

7K-6

ダウンサイジング時代のシステム要員の
再教育についての提案

有田俊彰

麻生福岡短期大学経営情報学科

1. はじめに

パーソナルコンピュータの性能が著しく向上し、これをネットワーク利用することで営業部門などの非定型業務のシステム化が容易となっている。

このことはホスト型システムのゆるやかな減少と、クライアント・サーバシステムの急激な増加となって現われている。ソフトハウスや大手ユーザは、既存のホスト型システム要員を急増するクライアント・サーバシステムのニーズに転換する方法に悩んでいる。

早すぎる技術革新の中で、システム開発やその運用に対してどう人的資源を充ててゆくかを考えることが21世紀の経営情報システムを語る礎となる。

本稿では経験年数10年以上のホスト型アプリケーション開発SEをモデルとして、ホスト型の知識を継承しながらダウンサイジング時代のSEに転換してゆくための教育カリキュラムについて提案する。

社会人SEが一年間会社を離れ、大学でリフレッシュ教育を受ける観点から検討を加えている。

2. 企業内教育の現状と今後の方向

一般に、第三代言語を入門節にした社員研修が行われており、研修後は実地での実務経験とリンクさせることで一応の成果としている。その後は必要に応じ、「スキル・アップ」の観点から集合教育を準備している状況である。

ところがシステムの形態が変化し、クライアント・サーバシステムにインターネットの運用を載せた、今日のシステムには旧態な集合教育では対応できないでいる。

集合教育と実務経験の中間的な「ワークショップ研修方式」を確立し、新システム技術の分野へ「スキル・シフト」する必要がある。

3. カリキュラムについて

モデルが経験豊富なSEであり業務知識の分野は十分として、クライアント・サーバシステム特有の技術内容について必要知識の選定とその修得方法について検討する。

カリキュラムについて、次の内容と手順を提案する。

技術的な局面

- | | |
|----------------------------|--------------|
| ①クライアント・サーバシステム入門知識 | ②プログラム作成知識 |
| ③パッケージ製品の商品知識と組み合わせ利用の技術知識 | ④データ・ベース設計知識 |
| ⑤性能設計の知識 | ⑥処理方式の決定知識 |

A Proposal of Reeducation at the Human-Resource on Computer-Downsizing-Time

Toshiaki Arita

Asou Fukuoka Junior College

740 Dazaifu, Dazaifu-shi, Fukuoka 818-01, Japan

⑦運用設計の知識

資源活用の局面

⑧データ資源の有効利用についてユーザを指導出来る知識

⑨経営的視野から人的資源の有効利用を計画出来る知識

技術的講習会の講師役は教育担当ではなく、システムの現場から招へいしなければ効果がない。

4. SEの知識の寿命

日々更新される情報技術の知識に対して、SEの知識を有効期限という観点から次の3つに分類して検討する。しかし知識というものは実際には、ある日突然使えなくなるものではないので賞味期限のようにとらえるほうが的確であろう。

①短期のもの（情報技術の確定後2年以内に知識の賞味期限が来るもの）

ビジュアル開発ツールの利用方法やパッケージ製品の選定及び最適組み合わせの知識

②中期（2～5年程度が賞味期限）

ハードウェア構成の知識、言語プログラムからアプリケーションを開発する知識及びそこでのデータベース設計知識

③長期（5～10年以上賞味期限）

システム企画を具体化するための性能設計、その後の運用設計及びシステム評価の知識

これらにより、技術革新が早い分野ほど知識寿命が短いことが分かる。この分野を学ぶSEは学会活動や雑誌の購読、ベンダー主催の展示会、コンファレンス等を利用していち早く知識として取り入れる必要があり、カリキュラムとしての実施を待っている余裕はないと思える。各人SEの自主的な姿勢が大切である。短期知識はいち早く知識として修得することが、実際の賞味期限を延ばすことにもつながる。

5. 教育支援体制について

本カリキュラムの効果は社内教育にあつては6ヶ月、大学のリフレッシュ教育では1年間で出すことを前提に検討しているが、教育完了のためにはSEを抱える会社の対応が重要である。

ホスト型で得た経験があるとは言え、クライアント・サーバシステムでは性能設計や運用設計の知識を要求される。ホスト型ではコンピュータ本体に標準装備されていた機能を手作りで追加してやらねばならない。

前項のカリキュラムは①から⑨までの全てを修得することで完成するので、途中で中断しないことが必要である。中断すれば部分教育に止まることとなり、ダウンサイジング時代のSEに転換して人的資源を有効利用する当初の目的が達成されない。

6. まとめ

ホスト型のSEはアプリケーションだけを見つめていれば良い時代であった。しかしクライアント・サーバシステムとなり、システム環境までを考慮して開発・運用に当たる時代へと変わって来ている。

また一方で、エンドユーザが簡易なアプリケーションを構成し、非定型業務に積極的にデータ・ベースを利用する時代でもある。

今後のSEはユーザの利用技術向上の影響から、より一層高度な知識の蓄積と経験の応用を求められる時代となり、ひいてはコンサルタントとして企業活動を指導し、或いは社会学者の視点から政治、行政、経済、文化の中枢に対し、情報化の方向を提案出来る能力まで要求されるであろう。